

実証成果 JA阿寒 (北海道 釧路市)

実証参加
教育機関

北海道標茶高等学校

実証課題名

共同型スマートCBS(キャトルブリーディングステーション)による地域一体となった労働力不足解消技術体系の実証～ホルスタインの借り腹による和牛生産で参加農家の収益15%以上増加を実現する

経営概要

肉用子牛 600頭/年間 うち実証頭数120頭/年間



導入技術

①分娩監視システム(分娩センサー・監視カメラ) ②哺乳育成システム(個別移動型哺乳ロボット・子牛健康管理システム)



目標

分娩作業時間(監視作業)50%削減、哺乳育成作業時間50%削減

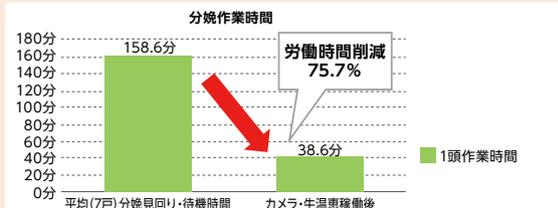
1 実証成果の概要

- 分娩センサー・監視カメラの設置により、分娩監視作業の労働時間を約75.7%削減(158.6分/頭→38.6分/頭)
- 個別移動型哺乳ロボットの設置により、哺乳作業の労働時間を約87.6%削減(16.1分/頭→2.0分/頭)し、労働力が軽減。
- 哺乳ロボット哺育管理による発育向上により、子牛の販売価格が1.5倍(15万円/頭→22万円/頭)に増加。

2 導入技術の効果

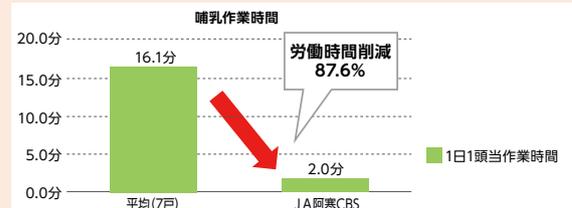
分娩作業時間(監視作業)

- 分娩監視では、作業時間を導入前より75.7%削減(分娩待機作業を含む。)



哺乳作業の労働時間

- 個別哺乳とCBSでの個別移動型哺乳ロボット設置による哺乳作業を比較すると労働時間が約87.6%削減(16.1分/頭→2分/頭)



3 人材育成の効果(参加した学生の声)

- 学生15名に対し、スマート農業の生産現場での現地研修を行い、参加した学生のスマート農業への関心が高まった。
- 学生のコメント:「学校では学べないことを知ることができて良かった」「すべてが初めて見る機械・設備であり、自分の中での酪農がとても広がった」「実際に見ることで理解が深まった」



4 今後の課題・展望

- 通信量に制限がない光回線等の環境が必要であるが、現状ではLTEを経由しており、使用制限がある。
農村地域では通信環境整備が不十分な場所も多々あり、今後はスマート農業推進と合わせ通信環境整備も重要。
- 哺育事故減少の目的のため、自動体温測定可能な機械等の設置により早期治療が可能となり、事故率低下が図られ、所得向上が可能と思われる。また、子牛の活動をカメラ画像で自動解析し、メール等で通知する機能があれば、さらなる労働力削減が期待される。

問い合わせ先

阿寒農業協同組合 地域対策室 (e-mail:yoshiyuki.tanaka@akan.ja-hokkaido.gr.jp)